

上映スケジュール

11月30日(土) 10:00 - 長編① 12:00 - 短編①

14:00 - 長編② 16:00 - 短編②

12月1日(日) 10:00 - 特別① 12:00 - 長編③

14:00 - 短編③ 16:00 - 長編④

12月2日(月) 9:00 - 招待① 12:00 - 長編⑤

14:00 - 特集① 16:00 - 短編④

12月3日(火) 10:00 - 長編⑥ 12:20 - 短編⑤

14:00 - 特集② 16:15 - 特集③

12月4日(水) 10:00 - 特集④ 12:00 - 短編⑥

14:00 - 長編⑦

12月5日(木) 10:00 - 長編⑧ 12:00 - 短編⑦

14:00 - 長編⑨ 15:45 - 短編⑧

12月6日(金) 10:00 - 短編⑨ 12:00 - 招待②

14:15 - 特集⑤ 15:55 - 長編⑩

上映後各賞授賞式

*各回、監督による舞台あいさつあり。トークイベントも開催予定。決定次第、映画祭のサイトやSNSで発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

【前売】

1回券 = 1,300 円
3回券 = 3,300 円 (期間中も販売)

【当日】

一般 = 1,500 円均一
シニア = 1,000 円 (いずれも税込)

特集 映像人類学の冒険

特集①

海南小記序説
アカマタの歌
西表島・古見



監督＝北村哲雄 / 1973 年 / 84 分

西表島古見村の豊年祭は、アカマタ・クロマタ・シロマタという仮面の来訪神が登場するが、一切の取材と研究が拒否されてきた秘祭。72年に監督らは祭祀の撮影に訪れたが「アカマタを撮ったら殺す」と拒まれた。その拒否のエネルギーの源を探るべく、カメラは17軒しかない村の家族のライフヒストリーを取材する。赤裸々な告白を含むため、長年封印されてきた映画が今そのベールを脱ぐ。

特集②

火と水と祝祭のバリ島
大森康宏特集



「ジョグット・ブンブン」 監督＝大森康宏 / 1990 年 / 14 分
「土と火と水の群送ーバリ島の群式」 監督＝大森康宏 / 1990 年 / 114 分

バリで映像人類学者ジャン・ルーシュに師事し、民族学博物館の製作で作品を撮り続けてきた、日本の映像人類学者の草分けである大森康宏。世界中で撮られた膨大な作品群のなかから、バリ島の伝統行事を撮った2本を上映。『ジョグット・ブンブン』では村人が生を堪能する祝祭的なダンスの場を、『土と火と水の群送』では島の宇宙観を反映した群送儀礼を撮り、島社会における陰と陽を際立てる。

特集③

エチオピアの芸能
音楽・馮依儀礼
川瀬慈特集



「ラリベロッチー—終わりに祝福を生きる—」 監督＝川瀬慈 / 2005 年 / 30 分
「僕らの時代は」 監督＝川瀬慈 / 2006 年 / 43 分
「精霊の馬」 監督＝川瀬慈 / 2012 年 / 28 分

エチオピア高原を移動しながら軒先で唄い、乞い、見返りに祝詞を与える唄い手を追った『ラリベロッチー』。弦楽器マシニコを弾き語るアズマリの少年少女の姿を数年ごとに記録し、音楽職能を生きる人間の営みと葛藤を描いた『僕らの時代は』。中東から東アフリカに広がる憑依儀礼ザールにおける、人間と精霊の交感を荒々しく映し出す『精霊の馬』。気鋭の映像人類学者による珠玉の短篇集。

特集④

Ainu ひつ



監督＝清口尚美 / 2018 年 / 81 分

明治政府が同化政策と開拓を進めた結果、アイヌ文化は急速に衰退したが、北海道の日高地方平取町には今も多くのアイヌが暮している。差別と貧乏を経験した人、伝統的な縫物をぬう人、祖母のカムイユカラ（口承文芸）を聞き覚えている人、イオマンテ（熊送り）などの儀礼を幼少期に見聞した人。文化伝承のために地域のリーダーとして活動し、生き証人でもある4人の「Ainu＝ひつ」を掘り下げる。

特集⑤

森のムラブリ



監督＝金子遊 / 2019 年 / 85 分

タイやラオスの森で暮してきたムラブリ族は、400人しかいない狩猟採集民。消滅が危惧される彼らの言語を研究する学者・伊藤雄馬と村に入ったカメラは、定住化は進むが、互いの集団が「人食いだ」と言って対立する様を見る。インドシナ半島のゾミアたるラオスの山中で、いまだノマド生活を送る集団に接触すべく奥地に入り、世界初の撮影に成功する。そこで目撃された現代の遊動民が抱える問題とは？

公式 HP : tdff-neoneo.com

twitter : @TDFF_neoneo

Instagram : [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo/)

Facebook : <https://www.facebook.com/tdff.neoneo/>

主催 : [neoneo](http://neoneo.net) 編集室

お問い合わせメール : tdff.neoneo@gmail.com

映画祭運営：伏屋博雄 金子遊 佐藤寛朗 若林良 大久保渉 吉田悠樹彦 宣伝：大久保渉
メインデザイン：家田祐明 デザイン：菊井崇史 WEB デザイン：古谷里美 表紙写真：川瀬慈『ラリベロッチー』より

いまの社会を映しだす、ドキュメンタリー作品が集結！

長編10本、短篇25本のコンペ入選作がグランプリを競う！

審査員による選考のほか、みんなで選ぶ「観客賞」もあります

11/30sat---12/6fri

TOKYO
ocumentary
Film Festival

2019

東京ドキュメンタリー映画祭

新宿K's cinema

長編コンペティション審査員：山崎裕（撮影監督） 鎌仲ひとみ（映像作家） 金子遊（批評家・映像作家）

短編コンペティション審査員：安岡卓治（映像プロデューサー） 佐藤寛朗（neoneo編集室）

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

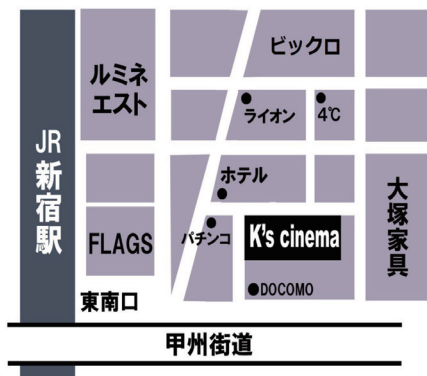
新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com
各回入替・整理券制

東京都新宿区新宿3丁目35-13

JR 新宿駅 東南口 徒歩3分 東口 徒歩5分

●各回定員入れ替え制●上映開始後のご入場は、お断りさせて頂く場合がございます●満席の場合は入場をお断りさせて頂く場合がございます●作品により画像、音声か必ずしも良好でない場合がございます。あらかじめご了承下さい。



ドキュメンタリー作品は世のなかを映しだす鏡だといわれます。今年は約 140 本の応募があり、つくり手が大きなテーマに取り組んでいる姿が印象的です。昨今の世相を反映してか、在日コリアン、アイヌ民族、沖縄、移民・難民など、広義の民族を扱った力作が目立ちます。東日本大震災から 8 年が経ちましたが、震災と幽霊、原発事故と疾病の問題など、震災ドキュメンタリーは深化をつづけています。個人の映像制作が可能になった影響もあるのか、ドキュメンタリー表現のスタイルに多様化が見られます。正統派のテレビ番組や記録映画の手法を使うものから、現代アート、Youtube、MV、SNS、フェイク・ドキュメンタリーを取り入れたものまで、いま国内で撮られている様々な作品が一堂に会します。劇場で魅力的な作品と出会い、監督たちと対話し、翌年はみなさんがつくり手として、この映画祭にもどってきて下さい！		金子遊（「東京ドキュメンタリー映画祭」プログラム・ディレクター）		
長編 ①	11.30 土 10:00-	アイたちの学校	監督＝高賢侑 / 2019 年 / 99 分	大阪市生野区の朝鮮人学校の戦前から戦中、戦後へと続く差別と抵抗の歴史をたどり、ヘイトスピーチの裁判闘争など、現在も描く。何度も学校閉鎖の危機に直面するも、不屈の闘志は失わない。綿密な調査に基づき、インタビュー、写真、ニュース映像で振り返り、民族の誇りを活写。朝鮮学校の姿を知ることになる。民族舞踊に興じ、スポーツに熱中する若者の生き生きした姿がまぶしい。
長編 ②	11.30 土 14:00-	空と、木の実と。	監督＝常井美幸 / 2019 年 / 84 分	20 歳の誕生日を迎えてすぐ、国内では最年少で性別適合手術を受け、女性から男性になった声優志望の小林空雅（たかまさ）さんを長期取材。世界最高齢で性別変更した 90 歳のチェリストの八代みゆきさん（男→女）や、無性の X ジェンダーの人と出会いながら、小林さんが悩み、成長する姿を描く。そこから浮かびあがってくるのは、男性・女性という枠組みでは括りきれない多様な性のあり方だ。
長編 ③	12.1 日 12:00-	とりもどす ―因われのアイヌ遺骨―	監督＝藤野知明 / 2019 年 / 100 分	1930 年代、北海道大学医学部の人類学者らは、浦河、浦幌などにあったアイヌ民族の墓を掘り返し、研究目的で遺骨を持ち去った。2012 年から北大に遺骨や副葬品の返還を要求して抗議し、賠償を求めて地裁に提訴した小川隆吉さんらの活動を数年にわたって追う。集会やインタビューで当事者たちの声を丹念に集めて、遺骨を再埋葬したいと願う彼らの先祖に対する心根が少しずつ見えてくる。
長編 ④	12.1 日 16:00-	つれ潮	監督＝山内光枝 / 2018 年 / 83 分	「鐘崎の海で潜ってみたいね」と、対馬の東海岸・曲（まがり）集落で、82 歳で海女を営む「おぼちゃん」がつぶやいた。鐘崎とは、曲の海人のルーツといわれている福岡県宗像市の集落のこと。時代を超えた磯帰りを実現すべく、彼女は玄界灘を対岸へと渡る。海女に魅せられた監督自身も海に潜り、漁の様子を撮影しながらその旅に寄り添い、海に生きる女性たちの交流をまるごと描いた。
長編 ⑤	12.2 月 12:00-	発酵する民	監督＝平野隆章 / 2019 年 / 97 分	2011 年 4 月、原発事故直後の鎌倉。かつて行われた脱原発パレードから派生し、盆踊りで平和の輪を描くことを目的とした「鎌倉イマジン盆踊り部」が結成された。そうした活動をはじめ、作品は生活の中に発酵の微生物の視点や、太陽系を縮小した円形の暦「地球暦」の概念を取り入れ生活する鎌倉の人々を捉える。そこには直線的な時間の流れに緩やかに対抗するような、「円環する時間」が流れている。
長編 ⑥	12.3 火 10:00-	戦後中国残留婦人考 間諜・露城	監督＝王乃真 / 2018 年 / 135 分	1930 年代から国策としての満蒙開拓で日本各地から約 27 万人が満洲に渡り、終戦後、帰国がかなわず中国に生きた人々がいた。制作に 6 年以上を費やした本作は、日本の若い一人の女性が「中国残留婦人」のもとを訪ね、その交流の中から、彼女たちの声に耳を澄まし、過去と現在に迫っていく。「歴史」では語られ難い当事者の声によって、故郷を離れ生きざるをえなかった彼女たちの記憶が切実に、丁寧に綴られる必見作だ。
短編 ⑦	12.4 水 14:00-	ニッポン●解散 第一部 杉並の乱	監督＝高西峰雄 / 2019 年 / 214 分	2007 年の杉並区議会議員選挙においては、「ロズジェネ」などと呼ばれた世代の、知られざる泡沫候補たちの戦いがあった。作品はトンデモ候補者とも言うべき彼らの、破天荒な選挙戦を追う。中心になるのは「素人の乱」の松本哉。彼の引き起こす行動は公職選挙法すれすれの際とさがあり、それゆえに「法」とは何かを問いかける逆説的な批評性も持ち合わせている。編集のパワフルさも出色な選挙エンターテインメント映画。
長編 ⑧	12.5 木 10:00-	調査屋マオさんの恋文	監督＝今井伊織 / 2019 年 / 84 分	変わりゆく認知症の妻を記録し続ける元調査屋の物語。マーケティング会社を仲間と立ち上げ、猛烈に働くが、いつしか家庭は崩壊。息子の言葉をきっかけに家庭再建を決意する。人生の道筋を縄文に求め、自給自足の生活を開始。米や野菜も調査することで、安定した収穫を得るようになる。そんな折、妻の縫子（ぬいこ）さんが認知症になり、奥さんを調査する傍ら、細やかな介護を始めた。
長編 ⑨	12.5 木 14:00-	テストイモニー証言	監督＝上方啓文 / 2019 年 / 88 分	中国では殷周の時代から続き、日本とも交流を重ねながら、それぞれ発展を遂げてきた書道。しかし「字」の文化に基づいた歴史と伝統を重視する人々がいる一方で、アートとしての表現を志向する者もあり、彼らは批判にさらされたりもする。伝統と表現の狭間で一体何を指すのか？ 中国芸術の研究家を父に持つ監督が、証言を中心に書家の日常も見せながら「書道とは何か」を考察する。
長編 ⑩	12.6 金 15:55-	ライジング・フロム・ツナミ	監督＝エレーヌ・ロペール、ジェレミー・ペラン / 2019 年 / 68 分	東日本大震災から 5 年、生き残った人々にとって、津波で犠牲となった死者の存在はどこにあるのかを「靈魂」をモチーフに描いた、フランス人監督によるユニークなドキュメンタリー。巨大な防潮堤の建設が肅々と進み、3 月 11 日には弔いの時間を共に過ごす三陸の被災地。その風景と同じ地平で、人々はその時間いた亡者の声を生々しく語り出す…。「3.11」に新たな視点をもたらす可能性に満ちた意欲作。
短編 ①	11.30 土 12:00-	沖縄と基地問題	監督＝比嘉真多 / 18 分 「沖縄から聞く 戦争の時代」監督＝湯本雅典 / 61 分	基地問題に揺れる沖縄の近況を描いたホットな 2 篇。『Reunite with My Past Self in Okinawa ～沖縄で過去の自分と出会う～』では、県民投票を呼びかける元 SEALDs の元山仁士郎に、同じ沖縄出身の監督である比嘉が密着。若者や自身の父親との対話が描かれる。『沖縄から叫ぶ 戦争の時代』では、基地反対闘争のさなか、与那国、石垣、宮古そして奄美に着々と建設される自衛隊基地の問題にカメラがフォーカスする。
短編 ②	11.30 土 16:00-	記録映像によるアート	「美しくあまい日本の私たち」トモシシ / 18 分 「THE NEVERENDING CEREMONY」トモシシ / 11 分 「ユメはなにうつつ」増田遼太 / 10 分 「旅のあとの記録」渡辺野州 / 16 分 「ANIMA」監督＝宮崎沙夕 / 25 分 「イデア」監督＝村岡俊成 / 17 分	日本とインドの路上において、ビデオカメラを使ったコンセプトチュアルな社会実験をおこなうトモシシの 2 編。古い写真から想起されたストーリーが語られる『旅のあとの記録』と、『夢十夜』を思わせるアニメーション作品『ユメみばなにうつつ』。少年犯罪の起きたニュータウンで「風景論」的な映画を実践する『ANIMA』など、アートの的なアプローチで撮られたドキュメンタリー作品を特集する。
短編 ③	12.1 日 14:00-	森と農のある暮らし	「ユートピア」監督＝桑貴恵 / 27 分 「ビューティフル・ビーキーパー きれいな蜂飼い」監督＝きたむらゆうじ / 25 分 「森の守り人～イサムの場合～」監督＝中井信介 / 53 分	脱資本主義的な暮らしを指向し、パーマカルチャー（自己維持可能な農業）を実践するスペインとイギリスの共同体を描く『ユートピア』。自閉症患者や障がい者を受け入れ、蜂飼いを通して生きることの価値を問う『ビューティフル・ビーキーパー』。生活と家庭を抱えながら、インドネシアのカリマンタンで森林保護活動をする人たちが取材する『森の守り人』など、森と農をテーマにした 3 作品が集結。
短編 ④	12.2 月 16:00-	21 世紀の難民たち	「かぞくの証明」監督＝岩崎雄 / 34 分 「ビニールハウスは家じゃない (This is not a house)」監督＝セ・アル・マムン、ジョン・ソビ / 53 分	21 世紀の難民や経済格差は重要な問題だ。「かぞくの証明」はエチオピアからの難民の生活を描いたドキュメンタリー作品。東京を舞台に、震災後の日本の現在に迫る。「ビニールハウスは家じゃない (This is not a house)」は韓国でビニールハウスを寮としてあてがわれ、冷暖房もない劣悪な環境での生活を余儀なくされる難民たちの現実を記録。この誰にも切実な問題を考えてみよう。
短編 ⑤	12.3 火 12:20-	アジアと戦争	「台湾 ―ある満蒙開拓団員の証言―」監督＝久保幸孝 / 19 分 「私は何者であるのか…」 ―ある台湾人学徒の証言―」監督＝松本亮彰 / 19 分 「アンビエンス・イン・ザ・パインズ」監督＝沢村新太 / バイリンガル カウンコンティン / 48 分	戦後 74 年、わずかに生き残る先の大戦の経験者を現代の若者がとらえた 3 篇。東京で開かれる満蒙開拓団の慰霊祭で出会った、日本に帰国後も故郷を追われざるを得なかった老人。日本人として動員され特攻隊に志願するが、終戦後は戦勝国・中国人としての扱いを受けた元台湾人学徒。激戦地ビルマの戦跡をミャンマー人学生と共に訪ねながら聞いた、村の古老たちの証言。それぞれの話が耳に残る。
短編 ⑥	12.4 水 12:00-	親子の離別	「芯音～残された子ども～」監督＝ヤン・シーリウ / 34 分 「ふたつの故郷を生きる」監督＝中川あゆみ / 65 分	様々な事情で離れ離れに暮らす親子の歪みを描く二本。『芯音～残された子ども』の主人公・芯音は、父親が日本で起業したため中国で祖父母に育てられるが、厳しいしつけに彼女は突然、奇声を上げるようになる…『ふたつの故郷を生きる』は、原発事故後に福島の父親と離れ都内で暮らす母子に密着。区域外避難者への住宅提供が打ち切られ、経済的、精神的に困窮するなか、粘り強く生きる姿を追う。
短編 ⑦	12.5 木 12:00-	テレビが映す人の性	「ザ・カミングアウト～中国 LGBT の叫び～」監督＝房瀾清 / 49 分 ※劇場版 「大黒屋ベイ・ブルース」監督＝浅見 / 45 分	ディレクターの着眼点が光る 2 本の TV 作品をセレクト。『ザ・カミングアウト～中国 LGBT の叫び～』は、青年たちが意を決して親に告白する瞬間が捉えられるが、親は簡単に受け入れられず、都市と地方の意識差も含めた社会的困難が描かれる。北海道の小さな街で 100 年続く映画館に集う人々を描く『大黒屋ベイ・ブルース』は、ささやかだが確かな支え合いの、暖かな息づかいが聞こえてくる。
短編 ⑧	12.5 木 15:45-	おいかけ女子のシネエッセイ！	「酔いどれ東京ダンスミュージック」監督＝長瀬由依 / 57 分 「劇場版 三木はるか賞 2018」監督＝三木はるか / 65 分	自身も酩酊癖がある長瀬由依監督が、日常生活はまるでダメという酔いどれミュージシャン・大槻泰永にカメラを向ける。ライブに足を運ぶうちいつしか娘とも仲良くなり、大槻のプライベートが丸裸にされていく…一方、普段は塾で働きながら、虚実入り混じるセルフドキュメントを撮り続ける三木はるか。ある撮影依頼をきっかけに、男性映像作家との関係が発展！？それぞれに不思議な味わいを残す 2 本。
短編 ⑨	12.6 金 10:00-	人生という名の哀歌	「家にあるひと」監督＝福原悠介 / 2019 年 / 21 分 「石山さん」監督＝川田淳 / 42 分 「三道嶺ブルース～消えゆく高気機関車と生きて」監督＝黄威勝 / 33 分	三者三様の人生行路。一人民家に住む老女。猫とのコミュニケーションと掃き掃除の日々。わずかな独り言から、彼女の生活感、人となりが見出する。ハンセン病で苦難の人生を送ってきた老人。しかし妻となる看護師から恋を打ち明けられ、二人三脚で人生を切り拓いてきた。新疆ウィグル自治区三道嶺。煙を吐き出し石炭を運ぶ蒸気機関車。過酷な労働に耐え、定年間の機関士に漂う哀感。
特別 ①	12.1 日 10:00-	土本典昭が見た オリンピック直前の東京	「東京都」監督＝土本典昭 / 1962 年 / 29 分 「ドキュメント路上」監督＝土本典昭 / 1964 年 / 54 分	「水保」の連作で知られる巨匠・土本典昭の若き日の 2 作品。『東京都』は高度成長期の地方から東京への人口流入を視座にした出色の東京論。テレビ用に制作されたが、スポンサーの異議で放送されなかった幻の作品。その 2 年後に制作された『ドキュメント路上』はタクシードライバーを主人公に、刻々と変貌する東京を描く。64 年の五輪直前の作品で、東京はどこも道路工事の真っ最中だった。
招待 ①	12.2 月 9:00-	福島は語る	監督＝土井敏邦 / 2018 年 / 170 分 ※劇場版	福島原発事故による放射能汚染で故郷を追われた、被災者たちの声を丹念にすくう。ジャーナリストの土井敏邦が 100 人に及ぶ証言者のなかから 14 人の声を選び、4 年かけて映像作品に仕あげた。故郷や住む土地を追われ、生業を失い、家族離散を強いられ、将来の希望を奪われた数十万人の被災者たちの傷がいまだ癒えないこと、事故が現在進行形であることがひしひしと伝わってくる、震災ドキュメンタリーの傑作。
招待 ②	12.6 金 12:00-	小さき声のカノン	監督＝鎌仲ひとみ / 2014 年 / 114 分	二本松市に住む佐々木るりさんは、原発事故の後も福島に止まり、子供たちを放射能の影響から守る努力をしている。幼稚園に全国から支援の野菜が届き、園児の母親たちの間にお手伝いの輪が広がる。一方、チェルノブイリ原発事故を経験したベラルーシでは、低線量の汚染地域で暮らすシングルマザーによる子供の被ばくを避ける取組みを取材。長編コンペの審査員をつとめる鎌仲監督の長編映画。